

緑ネット通信 No.77

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

虫とあそぼう！ in溜ノ上の森

溜ノ上の森 金井康朗

7月22日(金)3年ぶりに「虫とあそぼう」のイベントを開催しました。会員の所属する「自然観察ちば」とのつながりから「森とみどりに親しむ活動支援事業」の助成を受けることができたので、チラシをたくさん印刷して、子どもたちの姿が多い新築マンションにポスティングすることも出来ました。

自然体験の少ない子どもたちや若いお父さんお母さんたちに喜んでいただけてだけでなく、近隣の方たちに身近な森とその保全活動を知ってもらおうチャンスにもなったのではないかと思います。



朝は生憎の雨。それでもキャンセルもなく、8家族22名のお客様をお迎えして賑やかなイベントとなりました。

集合場所の新松戸駅では、早速昆虫図鑑を広げてあれこれ解説を始めるお子さんもいて、このイベントを心待ちにしていたことが伝わってきました。中には飼育ケース9箱でカブトムシを飼育しているという猛者もいて、虫談議に花を咲かせながら森に向かいました。

森に着く頃には雨も上がり、グループに分かれたみんなは”虫の目”になって、木々の周りに目を凝らしたり、草むらに分け入ったりして虫探しに夢中です。

この森にはカブトムシやクワガタなどのスター級の虫は見当たりませんが、個性的なバイプレイヤー(脇役)には事欠きません。次々に見つかる虫を囲んで歓声が上がります。アオスジアゲハの幼虫を恐る恐る摘み上げる子の姿は微笑ましい限りです。エゴノネ

コアシの解説には一同「へエ〜！」

ニホントカゲを捕まえた子に「トカゲも虫って知ってる？」と聞くと、「トカゲは虫じゃないよ！」との返事。「いやいや、トカゲだけじゃなく、へびもカエルもみんな虫だよ」パパやママに漢字を思い起こしてもらおうと・・・「ほら、蜥蜴、蛇、蛙、みんな虫だよ」妙に納得です。

捕まえた沢山の虫をプラケースに入れて集合。図鑑とにらめっこしながら虫合わせです。子どもたちは真剣そのもの。「これは〇〇かな？違うかな？◇◇じゃない？」と、探求心の塊になっています。

この日確認できた虫は約40種ほど、その傍らではダンゴムシレースに夢中の子どもたちも。親子そろって様々な形で虫に親しんだひと時でした。

こんな場所に、小さいけれどいろんな生き物がいる森があることを知ってもらえたことも、私たちににとっては大きな喜びでした。

まつど里やま活動の つながい ひろがい 2022 夏

松戸市では「関さんの森を育む会」が 24 年、「緑のネットワーク・まつど」が 22 年活動しています。「里やまボランティア入門講座」は 20 年継続し、里やまボランティアが活動する森は 18 か所にのぼります。松戸里やま応援団には部会ができて、ステップアップなどの講座やイベント、技術安全面での取り組みも盛んにおこなわれるようになりました。そして多くの活動団体が相互にかかわりあい「緑のコミュニティー」ともいえるようなネットワークを形成しています。

このような例は全国的にも無く、松戸オリジナルの稀有な里やま活動ネットワークであると言えます。最近では市外の団体や他分野団体とのつながりも少しずつ増え、その広がりが感じられます。

活動報告などから、この夏の様子を拾い出してみました。

Lef's 体験!!2022 で若い世代を受け入れ

“Let's 体験!!2022”は、松戸市民活動サポートセンターが主催する中学生～20 代の若者を対象とした、夏休みのボランティア体験講座。「マッチングの会」を経て、里やま団体も多くの若者たちを受け入れた。この体験はきっと長くその心に残ることだろう。

などの感想があった。

また3年前の参加者が大学生となって訪問してくれたり、OFに来森されたご家族の訪問もあったとのこと。

Lef's 体験!! 関さんの森

8月7日に中学生2名、高校生5名、大学生1名が参加。秋には地域活躍塾のボランティア受け入れも予定されている。



Lef's 体験!! In 野うさぎの森

松戸に残された数少ない緑地の保全活動の意味と、それに携わるボランティアの大切さを理解してもらいたいと、ボランティア体験を受け入れた。

7月20日市立松戸高校3年生4名、7月24日市立松戸高校2年生2名、社会人2名、また8月3・4日にはキャリア体験で旭町中学校2年生18名と先生が森を訪れた。

半袖半ズボンでの参加だったり、ヒグラシの声を「鳥?」「キリギリス?」と、想定外の出来事に驚いたりしたが「自分の身近な学校の横に、こんなに様々な自然がひろがっていることに驚いた」「森の良さや大切さを知ることができたので、これからも森の保全活動などがあれば参加したいと思った」

「汗をかく大変な仕事は誰かがやらないといけないので、もっとたくさんの人に知ってほしいと思った」

松戸の里やまで 自然観察会

7月10日東葛しぜん観察会主催で一般の方26名がしんやまの森、芋の作の森を訪ねた。案内する担当者3名は松戸の里やま整備にかかわっているのので、森についてのレクチャーにも力が入る。

森の涼しさを感じてもらったり、放置された森とボランティアの入っている森を比べたり、多様な木々や生き物にも目を向けてもらったり・・・

参加者はヤマユリの香りに包まれ、ヒヨドリバナ、アキノタムラソウなどの花も咲く緑あふれる千駄堀を楽しんだだけでなく、身近な森の大切さや、ボランティアの必要性もしっかり感じて頂けたことだろう。



七夕プロジェクト

この取り組みは、「松戸みどりの市民憲章」の普及を目的に発足した「みどりの行動会議」が樹林地所有者の理解を得、里やま応援団、松戸市関係各課との協働に基づき行なっているものだ。

松戸みどりの市民憲章に謳われている「みどりと暮らす豊かさ」を大切に想う心を育てることにつながることを願い、また里山整備で伐った竹の有効利用ともなる。具体的には「市内の児童館や学童クラブなどで七夕飾り用の竹の希望を受け付ける→それに応えて、ボランティアが竹林で竹を間伐する→市役所のトラックで、希望するところへ配達する」という行政とボランティアの協同作業だ。

今年も6月30日に里やま応援団の有志22名と市役所職員4名が秋山の森に集合し、マダケ



秋山の森

まつど里やま活動の
つながい・ひろがい 2022夏

約38本を伐り出し、市のトラック2台で35施設に届けた。



野うさぎの森

この取り組みがきっかけとなり夏休みに竹細工教室をやりたいなどの要望も届き、様々な活動へと広がっている。

このプロジェクト以外にも、野うさぎの森には活動日に新松戸小学校の読書応援団の方々を訪れ、またOFに来てくれたご近所の方がお友達と一緒に訪れて七夕の竹を伐り出したりしている。2年生のときに生活科で森に来た子どもとのうれしい再会でもあった！

秋山の森ではSave the Greenによる「森の七夕まつり」が開催された。



STG

ロープワーク講習会



実技中心の講習会(毎週土曜日全10回)が囲いやまの森でスタートした。講師は野口さん。

第1回は6月18日、木に結ぶ結び方を学んだ。

その後②ロープ同士をつなぐ、③ロープの締め、締め、収納、④輪を作る、⑤伐倒のロープワークと続いた。9月からは森のロープあそびなどに使えるものを行う予定。

森での作業の安全性も高まり、また来年のオープンフォレストにはロープあそびの出来る森が増えるかもしれない。



アーボリストって何?!



アーボリストとは樹上などで樹木の生育を促したり、樹勢回復させたり、剪定したり、伐採したりできる技術者集団。

市川市のわんぱくの森代表大峯章禧男さんは2年前に講習会を受け、現在里山ボランティア活動にその技術を生かしている。

5月に大町教育の森で行われたアーボリスト見学・体験講座には松戸からも数名参加した。その技術を是



囲いやまの森での講座

非松戸の仲間にも広く紹介したいと、技術安全部会で講座を計画、6月19日**囲いやまの森**に大峽さんを招いて実際にロープで高く登り枯れ枝を切り落とす作業を見学した。

その後**八ヶ崎の森**でもナラ枯れ被害の枯れ枝を落とすために協力をお願いしている。

アーボリストは三日間の講習、様々な用具の準備などボランティアにはなかなかハードルが高いかもしれないが、実際の技術は間違いなくとても有用なもので、先駆者大峽さんの意気込みが強く心に響いた。

.....その他にも.....

- ・5月25日 中央学院大市民講座を**囲いやまの森**で
- ・6月21日 **三吉の森**でチップ作業
- ・6月23日 **石みやの森**へ園児が森あそびとジャガイモ掘り体験
- ・6月28日 **みなみの森**でチップ作業
- ・7月5日 **溜ノ上の森**でチップ作業



- ・7月12日 **関さんの森**に園児来森
- ・7月13日 **八ヶ崎の森**でチップ作業

- ・7月15日 **ステップアップ講座「緑の基本計画勉強会」**みどりと花の課の三末課長のお話を聞いた。
- ・7月17日 **秋山の森**で **Save the Green** の虫イベント
- ・8月18日 **21世紀の森と広場 里やまQ**が水鉄砲づくり
- ・8月19日 旭町小放課後児童クラブ工作教室
- ・8月26日 幸谷小放課後児童クラブ工作教室



水鉄砲作り

～しぜんのコラム 52～

エゴヒゲナガゾウムシ

7月22日の『虫とあそぼう！in 溜ノ上の森』では、体長4～6mmほどの小さな虫が、エゴノキの果実に頭を突っ込み、孔を掘っていた。傍らには、頭部に2本の突起のある虫が、作業を見守っていた。この虫は、ヒゲのような長い触角をもっていることから、エゴヒゲナガゾウムシと呼ばれている。

孔を掘っているのはメスで、掘り終わるとお尻を穴に入れて卵を産む。下の写真はメスが産卵しているところ。左上の果実に孔があいているが、これは産卵を終えた孔。やがて卵は孵化してうじ虫状の幼虫となり、幼虫は種子を食べて育つ。ちなみに幼虫は“ちしゃ虫”と呼ばれ、川魚の釣りの餌として知られている。また、ヤマガラはエゴノキの種子が好物だが、種子を食べた“ちしゃ虫”も好物である。



エゴヒゲナガゾウムシ 2021.08.02 21世紀の森と広場 (下の写真も左:産卵中のメス/右:見守るオス/左上の実には産卵孔がみえる)

それにしても、オスの顔つきは奇妙である。別名“ウシヅラヒゲナガゾウムシ”とも呼ばれ、牛の角のような突起の先端に目(複眼)がある。また、雌雄ともに頭部の前面が真つたいらであるのも不思議。求愛行動と関係があるのかも知れない(右の写真)。



(山田純稔)

★**松戸のみどり再発見ツアー (観察学習会)**

★**新型コロナウイルス関連で中止になる場合がございます。事前にご確認ください。**

「戸定が丘歴史公園・庭園復元を振り返る」

戸定が丘歴史公園は和風の庭園に洋風技法を取り入れた明治時代の庭園・東屋などがあります。復元工事にかかわった一人として島村氏の解説で振り返り、戸定が丘の歴史や松戸のみどりについて考えます。

10月1日(土) 9:30~12:30 (小雨実施) 参加費 500円 (会員は 200円)

集合 JR松戸駅 西口デッキ 9:30集合 **持ち物** 飲み物、雨具 (解散後のお弁当は自由)

申込み・問合せ: 090-4078-3703 (藤田 9月15日から受付開始 **18時以降**) ※**申込制**・**先着30名**

その他 歩きやすい服装でどうぞ